

スポーツクラブの社会的機能に関する研究

桑 野 豊・杉 田 文 章・冨 永 徳 幸・菅 井 祐 子

A Study on the Social Function of Sport Clubs

Yutaka Kumeno, Fumiaki Sugita, Noriyuki Tominaga, Yūko Sugai

A sport club in Europe is an association or a franchise in that the general citizenry enjoy not only sports but cultivate community consciousness as well as "we-feeling".

To great regret, the sport club in Japan was liable to lay a great emphasis on physical training and molding character. Therefore, a socio-cultural approach in a study on sport club was weak.

So, the main purpose in this study is to make clear a social function of sport club.

The principal contents in this study are:

- (1) An effect of belonging to sport club on molding community consciousness—especially, role consciousness, dependence consciousness, cooperative spirit, belonging consciousness in the community life.
- (2) An effect of sport activities in the club to meet the individual needs in daily life.
- (3) An influence on daily life of sport activities in the club—especially, living time, family budget, family life.

The samples of this study are 534 persons of women's tennis club members and its comparison members in Mitaka city of Tokyo. On the method of study, the samples are interviewed by the questionnaire in February 1983.

Results of study:

- (1) In molding community consciousness, club members are more prominent than non-club members.
- (2) In effects of the activities in sport club, physical and mental effects, especially, the effects on health and dissolution of a lack of exercise, good diversion and dissolution of stress are remarkable.
- (3) In an influence on daily life, influences on living time and family budget and the share of sport club belonging are not great. The good effects on family life are remarkable.

Following the upper results, a person belongs to sport club to seek for the satisfaction of physical and mental needs in the daily life, so, in this club, it is understood that a person is unconsciously molding the community consciousness through the formal and informal social interactions in the sport club.

It is evident that sport clubs in a society carry out an important role in molding a new community consciousness in the modern world.

I 緒言 (問題意識)

社会学辞典によれば、クラブは次のように規定

される。すなわち「主として、娯楽、レクリエーションを目的として結成される人為的、自発的な

近代の集団であって、社会集団の類型としては、アソシエーション、ゲゼルシャフト、あるいは第二次集団などのいわゆる機能集団の一つに数えられる。しかし、クラブは、同じ機能集団の類型に属している集団の中でも、加入、脱退の条件や権利義務の関係など集団内統制が最も自由かつ、ルーズな集団で、開放的であると同時にその集団意識も稀薄であり、この点、政党や労働組合などの集団と若干質を異にしている。従ってクラブの結成の目的も、娯楽、レクリエーションが主で、せいぜい文化的領域にとどまるものが通常である⁽¹⁾と。

「スポーツクラブ」は、社会学的に言うならば、さしずめ“同じスポーツを愛する人たちによって結成される人為的、自発的な集団であって、集団の性格としては、出入りの自由かつ開放的な集団”を意味すると考えてよい。ところで、これは、あくまでも社会集団論に基づくクラブの概念規定である。

欧州のスポーツクラブは、その生活化においてかなり進んでいると言われる。日本スポーツ少年団本部の指導者海外派遣団の報告によると⁽²⁾、ドイツ人のクラブ参加の主な理由として、「友情と仲間意識」を挙げ、これらのクラブ活動が中心となって、クラブ活動以外の生活の場での個人的つき合いや共同生活へと人間関係が拡大していることを指摘してきている。また、クラブの主な意義と特徴として、①スポーツクラブは自己の個性を伸ばし、自己を表現する最良の場であること、②クラブに入ることによって、有効な余暇の過ごし方を考える糸口になること、③社交の場であること、④文明病撲滅に役立つこと、などを挙げている。そして西ドイツでは、このようなスポーツクラブが市民の生活におけるスポーツ活動を支える拠り所となっており、人びとは、このようなクラブ活動を通じて“われわれ意識”を育て、ひいては、それがまた、望ましいコミュニティ意識の形成に役立っているという。その点で、スポーツクラブは、単なるスポーツの集団、あるいはチームというよりは、人びとの日常生活における健康や生きがい、望ましい人間関係を育てる生活の拠り所といえるし、また、それは、施設、集団、指導者、活動のプログラムのシステム化された生活文化的要素をもつものと考えてよい。欧州のスポーツクラブは、

エドワードも指摘するように⁽³⁾、“単なる楽しみ以上の何かがある”と云ってよいだろう。

またエドワードは、これと関連して、社会制度としてのスポーツについて次のように述べている⁽⁴⁾。すなわち、「あらゆる社会は、人間の活動を方向づけたり、人間の努力を方向づけることについての基本的問題を解決しなければならない。……スポーツについても、社会は、中立的な身体活動（＝スポーツ）に、社会的に有意義な価値を吹き込むことによって、社会的に受け入れられ得る可能性や活動についての支配的な方向性を付与する。それ故、社会的関心は、一般に、スポーツに関係させられる人たちによるスポーツの行ない方の質、とくに、広範な一般的大衆の注意や関心を引きつけるためのスポーツの制度とより大きい社会の制度と両者に共通なある一定の価値志向に注意を向ける。……このイデオロギー的スポーツ信条、つまり、スポーツ活動に盛り込まれる社会的に重要な価値は、その社会の生活信条や道徳的特性を補足し、かつ補充するものであり、より直接的には、ある社会のメンバー達の日々の世俗的関心に適用される性質をもつ」と。その点では、スポーツの世界は現実社会の縮図といえ、現実社会とのかかわり合いが大きいと云ってよい。

残念ながら、わが国のスポーツクラブ論はこれまで、ややもすると“からだづくり”や“人間形成論”に終止し、組織論としても、育成と組織化に重点が置かれ、スポーツクラブの文化論的アプローチが弱かったと考えてよい。

この研究の主たるねらいは、現存するスポーツクラブの社会的機能を現実社会との関連で社会的に明らかにすることによって、今後のわが国におけるスポーツクラブの質的内容を高めるための基礎資料を得ようとするものである。

II 調査研究

1. 研究のねらい

研究をすすめるにあたって、とくに3つの点に重点を置いた。1つは、クラブの外体系との関連で、クラブ経験がその参加者の「コミュニティ意識」に及ぼす影響について、もう1つは、クラブの内体系の問題として、クラブ活動が個人（メンバー）の生活欲求の充足度に及ぼす影響について、第3点として、クラブ活動が日常生活に及ぼす影

響について実証的に明らかにすることである。

2. 概念の整理

ここで言う「コミュニティ意識」とは、マッキーバーの概念規定に従って、「地域性」と「共属感情」によって支えられる社会集団を意味し⁽⁴⁾、この論文では、われわれは生活のしくみとコミュニティ、クラブの相互関連を次のように設定した。

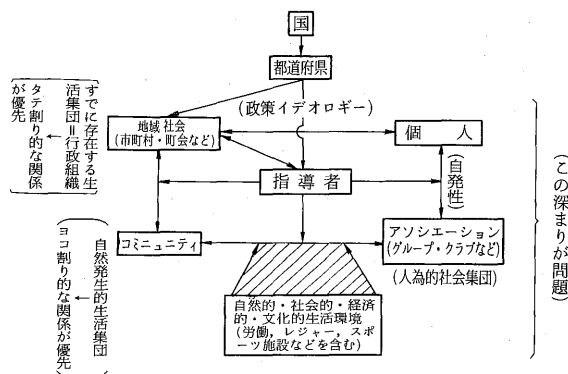


図-1 地域社会とコミュニティ、クラブの関連構造図

注.

- ① 地域社会…市町村、町内会という行政組織と考えてよい。したがって、これはすでに存在する生活集団であり、人間はこの地域社会に運命的に組み込まれる。国→都道府県→市町村と行政的タテ軸の線で系列化されている。
- ② コミュニティ…「地域性」と「共属感情」（われわれ意識）によって支えられている地域の広がりをもった生活共同体を意味し、必ずしも地域社会＝市町村と一致するものではない。市町村の中に形成される場合もあれば、市町村の枠を越えて形成される場合もある。コミュニティは、生活欲求を満たす生活の社会的充足によって自発的に形成される。
- ③ アソシエーション…趣味や生活欲求を充足するために形成される人為的な機能集団である。インフォーマル及びフォーマルな自主グループやクラブはこれに当たる。人間の欲求を満たすためのアソシエーションがいくつか集まって、人々の生活欲求を充足する社会的システムができ、人々がそれを通して、ある一定の地域性とわれわれ意識をもつように

なった生活共同体をコミュニティと考えてよい。その点でコミュニティは生活欲求充足の自発的・自主的な社会システムと考えてよい。

- ④ 自然的・社会的・経済的・文化的環境…地域社会やコミュニティ及びアソシエーションを支える自然的・物的・社会的条件と考えてよい。したがって、スポーツ施設などはこれに当たる。
- ⑤ 今日の社会では、地域社会と個人はあるが、コミュニティやアソシエーションを欠いているところに今日の問題がある。人間の社会生活がより充実したものとなるためには、コミュニティ及びアソシエーションの開発、普及、振興が大切である。
- ⑥ 欧米では、アソシエーションとしてのスポーツクラブがコミュニティ形成の上で重要な役割を果たしている。コミュニティ・スポーツの場合、まさに、このスポーツクラブづくりとクラブを中心とした自発的・自主的コミュニティ意識の形成が重要である。
- ⑦ 指導者…地域における指導者は、この構図の中で、個人やアソシエーション、コミュニティ、地域社会の相互関連性を人間尊重の立場からどう考え、どう動かしていったらよいかを考えていくことが重要な社会的役割となる。

3. 研究の内容

(1) 外体系としてのコミュニティ意識について

松原治郎氏によれば⁽⁵⁾、コミュニティ意識は、地域における役割意識、依存意識、共同意識、帰属意識の4側面からとらえられるという。この考え方に従って、次の4つの内容を考えた。

- ア. 「地域生活における役割意識」…住民運動や町内行事、除草・清掃作業への参加、地域での役割、地域への寄与、地域の子どものいたずらに対する注意、市の行政に対する関心などの意識。
- イ. 「地域への依存意識」…定住意志、日常生活用品の購入、地域に頼れる人がいるかどうか、地域の人々が自分の支えになっているかどうか、三鷹市コミュニティセンターの利用経験
- ウ. 「地域における共同生活意識」…近所づきあいや防犯対策への協力、共同生活・個人生活の意識
- エ. 「地域生活における帰属意識」…仲間意識や地域への愛着心、地域に対する誇り、地元の高校野球チームに対する態度、地域のメンバー意識、自治会の慣習への順応、これらの内容について、クラブ加入者とクラブ

非加入者とのちがいをみるために両者を比較検討した。

(2) 内体系としてのクラブ活動の及ぼす個人の生活欲求の充足度

ア. クラブへの期待

イ. クラブ活動の効果と満足度

(3) クラブ活動の日常生活への影響

クラブ活動の日常生活への影響をみるために、クラブ活動とメンバーの日常生活の関係について次の点をみた。

ア. 生活時間への影響

イ. 家計に対する影響

ウ. 家庭に及ぼす影響

4. 対象, 方法, 時期

(1) 対象…三鷹市家庭婦人軟式庭球協会加入のクラブメンバー全員(178人)と、比較対照群(無作為抽出)356人中241人(回収率68%)の計419人。比較対照群の抽出にあたっては、クラブ加入者(メンバー)の世帯の左右両隣りのほぼ同じ年齢層の主婦を選んだ。

(2) 方法…質問紙法(調査員が戸別訪問配布並びに回収)

(3) 時期…1983年2月

III 調査結果の処理とその考察

1. コミュニティ意識の形成について

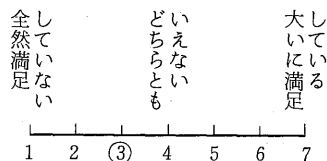
コミュニティ意識の形成をたしかめるために、コミュニティ意識を地域社会における「役割意識」「依存意識」「共同生活意識」「帰属意識」に分け、これらの枠組み毎にいくつかの下位質問項目を設け、それを無秩序に配列した質問紙をつくり、「クラブ加入者」と「クラブ非加入者」のコミュニティ意識のちがいを比較検討した。なお、(注)に示すように、各々の質問項目に対しては、7段階の尺度で回答を求めた。

次に述べる「A. 各項目ごとの比較」では、回答された1～7の数字をそのまま個々人の得点とした。

「B. 各内容の柱ごとの比較」では、さらに各枠組(「役割意識」「依存意識」「共同生活意識」「帰属意識」)ごとの得点を合計して、それを7段階の尺度で表わしている。

(注) 一例 題一あなたは現在の生活に満足していらっしゃいますか。

—記入例—



この例題では、上図のような直線上の番号は満足の程度をあらわしています。

1から7に近づくにつれ満足の程度が高くなります。

第1表～第8表に示した平均とは、回答者全員の得点総計をN(回答者数)で割ったものである。また、対象(N)については、クラブ加入者と非加入者を以下のように規定した。

●「クラブ加入者」…テニスクラブに加入して他のスポーツ以外のクラブ・団体に加入していない者。

●「クラブ非加入者」…テニスクラブにもそれ以外のクラブ・団体に加入していない者。

A. 各項目ごとの比較

第1表から第4表には各項目ごとの結果を示したが、ここでは7段階尺度の4を中心に、それ以下(1～3)と、それ以上(5～7)の3段階で表わしている。

(1) 地域生活における「役割意識」

第1表に示すように、①住民運動への参加、②町内行事への参加、③除草・清掃作業への参加、④地域での役割、⑤地域への寄与、⑥地域の子どものいたずらに対する注意、⑦市の行政に対する関心、のいずれも、加入者の方が、非加入者の平均値を上回っている。

(A 各項目ごとの比較)

表一1 地域生活における役割意識について

① 住民運動への参加

類別	内容 N	内容			平均
		ない	どちらとも いえない	ある	
加入	148人	34.5%	18.2	47.3	3.92
非加入	219人	44.3%	19.2	36.6	3.51

② 町内行事への参加

内容 類別 N	しない	どちらとも いえない	する	平均
加入	148人 19.6%	22.3	58.1	4.57
非加入	219人 28.3%	26.9	44.7	4.12

③ 除草・清掃作業への参加

内容 類別 N	しない	どちらとも いえない	する	平均
加入	148人 3.4%	8.8	87.8	5.70
非加入	216人 8.8%	19.9	71.3	5.28

④ 地域での役割を引き受けるか

内容 類別 N	引き受けない	どちらとも いえない	引き受ける	平均
加入	148人 14.9%	35.8	49.3	4.47
非加入	219人 25.1%	41.1	33.8	4.11

⑤ 地域の役に立っているか

内容 類別 N	役に立っていない	どちらとも いえない	役に立っている	平均
加入	148人 16.3%	49.3	34.5	4.22
非加入	219人 35.1%	44.3	20.6	3.57

⑥ 地域の子供のいたずらに対する注意

内容 類別 N	しない	どちらとも いえない	する	平均
加入	148人 2.1%	6.8	91.2	5.94
非加入	219人 4.1%	16.9	79.0	5.60

⑦ 市の行政に対する関心

内容 類別 N	ない	どちらとも いえない	ある	平均
加入	148人 6.1%	16.2	77.7	5.43
非加入	215人 10.8%	27.4	61.9	5.01

(2) 地域への「依存意識」

第2表に示すように、②日常生活用品の地域内での購入の項目では、クラブ加入者よりも、非加入者の方が平均値が高いが、その他の①、③、④、⑤

表-2 地域への依存意識

① 今後も現在の住所に住みつづける意志

内容 類別 N	他移る	どちらとも いえない	この地に 住む	平均
加入	148人 8.1%	18.9	73.0	5.32
非加入	219人 11.5%	23.7	64.9	5.18

② 日常生活用品の購入

内容 類別 N	しない	どちらとも いえない	している	平均
加入	148人 11.5%	13.5	75.0	5.21
非加入	219人 9.5%	13.2	77.1	5.37

③ 地域に頼れる人がいるか

内容 類別 N	いない	どちらとも いえない	いる	平均
加入	148人 13.6%	16.2	70.3	5.03
非加入	218人 15.5%	21.6	62.8	4.80

④ 地域の人々が自分の支えになっているか

内容 類別 N	いない	どちらとも いえない	いる	平均
加入	148人 6.8%	33.8	59.5	4.86
非加入	217人 12.4%	43.8	43.7	4.50

⑤ 三鷹市コミュニティセンターの利用経験

内容 類別 N	ない	どちらとも いえない	ある	平均
加入	148人 7.4%	0.7	92.0	5.74
非加入	216人 30.6%	6.0	63.4	4.47

の項目では、いずれも加入者の方が、非加入者の平均値よりも高いことがわかる。

(3) 地域における「共同生活意識」

表-3 地域における共同生活意識について

① 近所づき合い

内容 類別 N	しない	どちらとも いえない	している	平均
加入	146人 7.5%	13.0	79.8	5.36
非加入	219人 14.6%	15.5	69.8	5.04

② 防犯対策は地域で行なうべきか

類別	内容 N	個人	どちらとも いえない	地全 域体	平均
加入	148人	8.2%	16.9	75.0	5.66
非加入	215人	11.6%	24.7	63.7	5.27

③ 共同生活・個人生活の意識

類別	内容 N	個人 生活	どちらとも いえない	共生 同活	平均
外入	148人	29.0%	30.4	40.5	4.12
非加入	216人	37.1%	35.6	27.3	3.70

第3表に示すように、①近所づきあい、②防犯対策への協力、③共同生活、ともに、いずれも、加入者の方が、非加入者の平均値よりも高くなっている。

(4) 地域に対する「共通の帰属意識」

第4表に示すように、①地域への愛着、②仲間意識、③地域に対する誇り、④地元の応援、⑤慣習への順応、⑥地域メンバー意識、ともに、いずれも、加入者の方が、非加入者よりも平均値が高くなっている。

表-4 地域に対する共通の帰属意識について

① 地域への愛着

類別	内容 N	感 じ な い	どちらとも いえない	感じる	平均
加入	148人	3.4%	16.2	80.5	5.41
非加入	219人	9.6%	20.1	70.3	5.20

② 地域の人々に対する仲間意識

類別	内容 N	感 じ な い	どちらとも いえない	感じる	平均
加入	148人	10.1%	39.9	50.0	4.72
非加入	219人	14.2%	33.8	52.0	4.59

③ 地域に対する誇り

類別	内容 N	も っ て い ない	どちらとも いえない	も っ て い る	平均
加入	148人	3.4%	35.1	61.5	5.03
非加入	219人	6.4%	37.4	56.2	4.96

④ 高校野球で地元を応援するか

類別	内容 N	し な い	どちらとも いえない	す る	平均
加入	148人	6.7%	9.5	83.8	5.86
非加入	219人	12.3%	11.4	76.2	5.58

⑤ 自治会の慣習に従っているか

類別	内容 N	い な い	どちらとも いえない	い る	平均
加入	147人	1.4%	13.6	85.0	5.48
非加入	218人	8.7%	22.5	68.8	5.11

⑥ 地域の一員だという意識

類別	内容 N	感 じ て い ない	どちらとも いえない	感 じ て い る	平均
加入	148人	5.5%	19.6	75.0	5.34
非加入	215人	10.3%	26.0	63.8	5.09

B. 各内容の柱ごとの比較検討

次に以上の項目を、さらに、(1)「役割」、(2)「依存」、(3)「共同」、(4)「帰属」の4つの柱ごとに各下位項目をまとめ、そのちがいを比較してみると、第5表～第8表ならびに第2図に示す通りである。

(1) 地域生活における役割意識について

クラブ加入者の平均が5.31、クラブ非加入者の平均が4.88と加入者の方が高い。(第5表参照)

(2) 地域への依在意識について

クラブ加入者の平均が5.62、非加入者の平均が5.23とクラブ加入者の方が高くなっている。(第6表参照)

(3) 地域における共同生活の意識について

クラブ加入者の平均が5.36に対して、非加入者の平均が4.98である(第7表参照)

(4) 地域に対する共通の帰属意識について

クラブ加入者の平均は5.69であり、非加入者の平均は5.50である。(第8表参照)

なお、これらの有意差を検定したのが第2図である。

一般に、クラブ加入者は非加入者よりもコミュニティ意識が高いと言ってよからう。

(B 各内容ごとの比較)

表－5 地域生活における役割意識

程度 N	1	2	3	4	5	6	7	得点
加 入 148人 (%)	— (—)	— (—)	3 (2.0)	24 (16.2)	61 (41.2)	44 (29.7)	16 (10.8)	5.31
非加入 212人 (%)	— (—)	3 (1.4)	17 (8.0)	53 (25.0)	77 (36.3)	53 (25.0)	9 (4.2)	4.88

表－6 地域への依存意識

程度 N	1	2	3	4	5	6	7	得点
加 入 148人 (%)	— (—)	— (—)	1 (0.7)	18 (12.2)	37 (25.0)	72 (48.6)	20 (13.5)	5.62
非加入 215人 (%)	— (—)	2 (0.9)	11 (5.1)	33 (15.3)	75 (34.9)	77 (35.8)	17 (7.9)	5.23

表－7 地域における共同生活意識

程度 N	1	2	3	4	5	6	7	得点
加 入 146人 (%)	— (—)	1 (0.7)	4 (2.7)	30 (20.5)	38 (26.0)	53 (36.3)	20 (13.7)	5.36
非加入 214人 (%)	— (—)	8 (3.7)	21 (9.8)	32 (15.0)	76 (35.5)	61 (28.5)	16 (7.5)	4.98

表－8 地域生活における共通の帰属意識

程度 N	1	2	3	4	5	6	7	得点
加 入 147人 (%)	— (—)	— (—)	— (—)	8 (5.4)	51 (34.7)	67 (45.6)	21 (14.3)	5.69
非加入 215人 (%)	— (—)	2 (0.9)	4 (1.9)	29 (13.5)	64 (29.8)	81 (37.7)	35 (16.3)	5.50

2. クラブ活動の個人の生活欲求充足に及ぼす影響

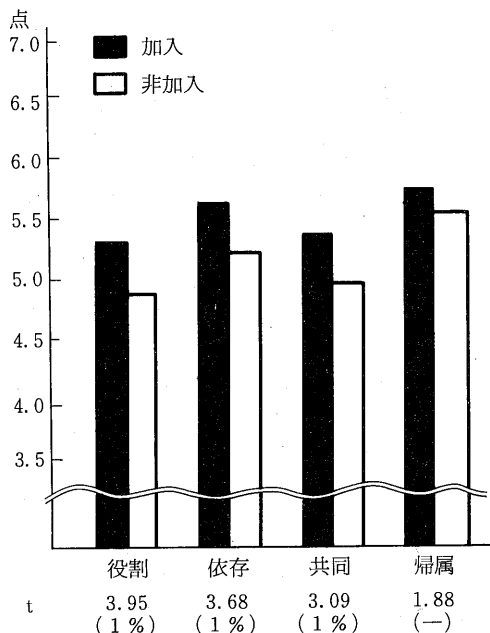
クラブ活動の個人の生活欲求充足をみるために、「クラブへの期待」「クラブ活動の効果」「クラブ活動の満足度」についてみた。

(1) 「クラブへの期待」

「健康の維持・増進」が73.5%、「気分転換」が14.7%、「友人を得ること」が8.1%となっており、健康志向が強いことがうかがえる。

(2) 「クラブ活動の効果」

クラブ活動の効果を、身体的効果、精神的効果、社会的効果に分けてみると、第3図に示すように、



図一 2 「役割」・「依存」・「共同」・「帰属」意識についての得点の有意差

身体的効果が「大いにある」が55.1%，精神的効果が「大いにある」が53.7%，社会的効果が「大いにある」が20.6%となっており，クラブ活動の身体的，精神的効果とくに，健康や運動不足の解消，気分転換やストレス解消にかなり大きく寄与していることがわかる。

(3) 「クラブ活動の満足度」

「大いに満足」35.3%，「ある程度満足」62.5%となっており，かなり満足度は高い。

3. クラブ活動の日常生活への影響

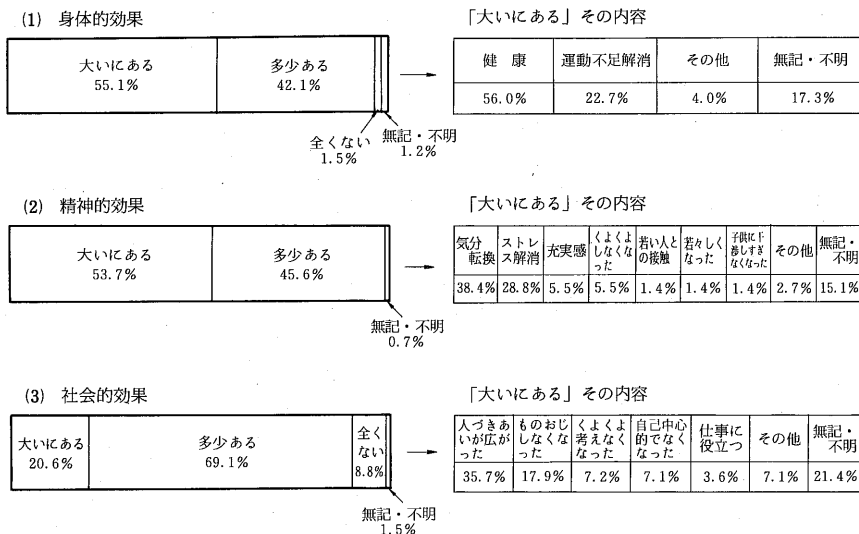
クラブ活動への参加が日常生活にどんな影響を及ぼすかをみるために，(1)生活時間への影響，(2)家計への影響，(3)家庭生活への影響の3つについてみた。その結果を図示すると第4図に示すとおりである。

第4図をみてもわかるように，生活時間への影響は「大いにある」が8.8%，「多少ある」が68.4%で計77.2%が何らかの影響があると答えている。

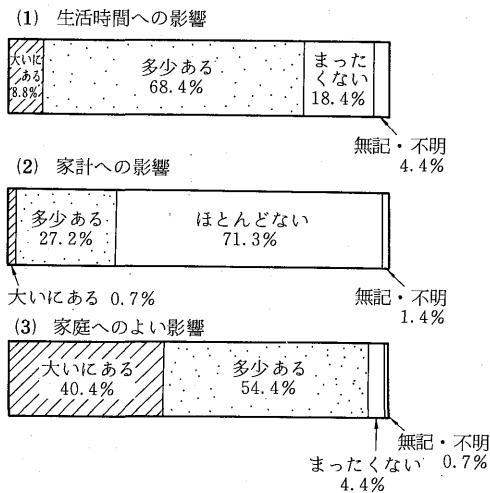
家計への影響は「大いにある」が0.7%，「多少ある」27.2%で計27.9%である。

家庭へのよい影響は「大いにある」が40.4%，「多少ある」が54.4%で計94.8%である。

婦人のクラブ活動にとって，クラブの活動は，



図一 3 クラブ活動の効果



図一 4 クラブ活動と日常生活

経済的には殆んど影響なく、時間的にはやや影響が出てくるが、家庭に及ぼす影響は、きわめてよい効果をもたらしていることがわかる。

IV まとめと今後の課題

1. まとめ

以上の調査結果をみてもわかるように、人はまず身体的、精神的な個人的欲求の充足を求めてクラブに入る。そして、このクラブという社会的集団の中で、そこにおける地位、役割構造を中心とするフォーマルとインフォーマルな人間関係（集団活動）を通して、個人的なスポーツ欲求の充足以外に地域社会と自らを結びつけるコミュニティ意識（社会的性格）を、自らが自覚すると否とにかかわらず身につけていることが推察できる。社会的制度としてのスポーツの社会的機能の重要な側面といってよかろう。しかも、これら地域におけるスポーツ活動は、経済的にも、時間的にも、そう無理な生活文化でないことがわかったとともに、家庭生活にかなり大きい好影響をもたらしていることがわかった。

2. 課 題

1980年代は“地方の時代”だと言われる。その点で地域スポーツが見直される傾向にある。

従来、地域スポーツは、ややもすると市町村の行政当局を中心とする上からの社会的発想に基づくスポーツ振興策が中心であった。今後は、個人の自発的、自主的なスポーツ欲求に根ざすコミュニティ・スポーツの普及、発展が望ましいコミュニティづくりにとってきわめて重要である。その際上田篤氏は、まちづくりの21世紀に向けての「行政の文化化」について論じているが⁷⁾、コミュニティ・スポーツの文化化についての視点が重要である。

今回の調査研究の対象は、三鷹市家庭婦人軟式庭球協会という、どちらかと言えば、その活動目標が「競技志向」型というよりは、「仲間づくり志向」の技術的レベルもあまり高くないクラブが中心であった。これが特に競技志向の強いクラブや、10代～20代の若いクラブであれば、果たしてこの調査結果と同じ結果が出てくるのか、などの問題はこれからの課題である。

今後は、クラブの目標やクラブ内の人間関係の構造特性とそれがメンバーに与える社会的影響やコミュニティ意識の形成過程に及ぼす影響などについて研究していく必要性を感じる。また、女性についてだけでなく、男性についても検討をすすめたい。

引 用 文 献

- 1) 福武直也編「社会学辞典」, 有斐閣1958 P.189
- 2) Harry Edwards : Sociology of Sport 1973. p. 87
- 3) ibid 2) pp. 89～90
- 4) 磯村英一編著「コミュニティの理論と政策」東海大学出版会 1983 P. 2～4
- 5) 松原治郎「コミュニティの社会学」東大出版会 P. 25～33
- 6) 日本スポーツ少年本部「ヨーロッパのコミュニティスポーツ」昭和50年度指導者海外派遣報告書 1975 P. 34
- 7) 上田 篤編著「21世紀の都市と行政の文化化」「行政の文化化」, 学陽選書 P. 5～46